

がん患者の意思決定構造に応じた情報提供システムの開発

看護学部 川崎 優子

キーワード がん患者, 意思決定支援, アプリ, AI

研究概要

患者の意思決定構造、および意思決定支援に関わる医療従事者(看護師、医師、薬剤師、MSW)の臨床判断構造の解析結果をもとに、意思決定支援のために「何が意思決定の決め手になりそうか」を推定し、「がん患者の価値観を可視化するアプリ」を構築し、試作品の改善を図るために実行可能性の調査を行っています。

がん患者の通院する医療機関において、がん患者さんが入力したデータに基づいた解析結果を医療従事者と共有し、個別の情報提供をしながら、治療や療法方法の意思決定支援に役立てることを想定しています。

アピールポイント

がん医療が複雑化する中で、デジタルヘルスにおける治療用アプリケーションに看護学の知を搭載することで、今後のデジタルヘルスケアに貢献できる研究であると考えています。

応用分野

現在は、「がん患者」、「意思決定支援における価値観」に焦点化したアプリを開発していますが、他の疾患や治療に関わるセルフマネジメントへの応用も可能であるため、アプリの汎用性の拡大について検討したいと考えています。



がん患者の価値観を可視化するアプリ



価値観の可視化